

# 交通ルールを親子で語ろう

春の交通安全運動 4月6日～15日

ここで気を  
つけなければ  
ならないのが、  
交通事故です。  
毎年、この  
時季は、新入  
学児童の交通  
事故が目立ち  
ます。入学を  
前に、正しい  
交通ルールに  
ついて、いま  
一度親子でよ  
く話し合いま  
しょう。



子供を交通事故から守るには、  
まず子供の行動の特性をよく知  
ることが大切です。そのいくつ

## 子供の行動特性を知ろう

かをあげてみますと――

▽子供は一つのことに関心が向  
くと、まわりのものが目に入ら  
なくなる。ボールが道路にころ  
がり出すとつい走り出すのもそ  
のためです。

▽ものごとを単純にしか理解  
できない。いつでも、黄色い小  
旗をあげると車は必ず止まると  
思いこみがちですが、車は急に  
は止まれません。

▽「あぶないよ」とか「注意  
しなさいよ」という抽象的な言  
葉だけでは、具体的な行動と結  
びつけて理解することがむずか  
しい。

## 「飛び出し」による事故が約七割

子供の交通事故で一番多いの  
は、いわゆる「飛び出し」です。

警察庁の統計によりますと、昭  
和五十四年の幼児と小学生の交  
通事故のうち六六％、つまり全  
体の七割近くが路地から大通り  
などへの「飛び出し」が原因と  
なっています。

小学生の「飛び出し」による  
事故は、一～三年生が四～六年

生に比べて約四倍にもなると  
おり、低学年ほど危険が多いこ  
とを物語っています。

「飛び出し」に次いで事故件数  
の多いのは「横断中の事故」で、  
停車している車や走っている車  
の直前直後の横断、信号無視、  
路上で遊んでいて――などとな  
っています。

へお母さんへ

## 登校前はゆとりをもつて

子供のいるご家庭では、  
ふだんから交通ルールをよ  
く教えるとともに、朝、学  
校に送り出すときは、次の  
点に十分気をつけましょう。

- ◎ 出かけるときにしから  
ない
- ◎ 忘れものをさせない



◎ 通学時間にゆとりをも  
たせる

子供は、しかられるとそ  
のことで頭がいっぱいにな  
り、周囲の状況が目に入ら  
なくなります。

また、時間にゆとりが  
なかったり、忘れものをし  
て途中から引き返したりす  
ると、非常にあわてるため  
注意力が散漫になり、事故  
のもとになりますから注意  
しましょう。

一方、車を運転される方  
は、こうした子供の行動特  
性を十分理解して、子供を  
見たら「赤信号」と思い、  
細心の注意を払いましょう。

▽信号無視をしている大人や  
年上の子供を見るとすぐまねを  
したり、自分で状況を判断しな  
いで大人や年上の子に依存しが  
ちで、人の流れにたよって信号  
もみないで横断歩道を平気で渡  
つたりすることが多い。

▽応用動作ができない。例え

ば、いつも通る道路では交通ル  
ールを守ることができて、別  
の道路ではそれができないこと  
が多い。

▽物のかげで遊ぶ傾向がある。  
例えば、空のダンボールに入っ  
たり、車のそばで遊びたがる。